

令和6年度事業報告書

はじめに

(1) 令和6年度の概況

世界の経済や安全保障、地球温暖化、少子高齢化等社会課題が山積する中、自動車や道路交通分野では協調型運転支援システム、コネクテッドカーや自動運転など、新たなITSサービスが順次実用化されつつある。

その中で、国内自動車市場は、一部生産停止の影響を受けたものの、年度通期では458万台（前年度比101%）と前年度並み販売台数を確保した。

当機構の基幹事業については、セットアップ情報発行事業は総セットアップ件数が653万件（前年度比101%）、暗号鍵（注1）提供事業は提供件数合計が2,374万件（前年度比109%）となった。

運営面においては、セットアップ登録店における業務効率改善とお客様の利便性向上を目指し、新セットアップシステムへの移行を開始した。また、2030年頃までを予定しているETCの新セキュリティ移行についての課題整理・環境整備への取組みも強化した。

これらの結果、経常収益は約45.6億円（予算比103%、前年度比101%）、経常費用は、新セットアップシステム移行に伴う開発費増加等により約46.1億円（予算比87%、前年度比133%、前年度差約12億円増）、当期経常損失は約0.5億円となった。

(2) 事業の取組み状況

以下の事業運営方針を基に事業を実施した。

<令和6年度事業運営方針>

①基幹事業の深化

(ア) SPF（注2）業務の堅牢化と高度化

継続・計画的な業務基盤強化並びに次期セットアップシステムの構築及び導入環境整備

(イ) セキュリティ移行関連業務の支援

移行推進に向けた活動の強化

(ウ) 事業パートナーとの連携（HUB機能）強化

機構活動・成果の「発信・共有」の強化

②社会環境の変化に応じた新たなITSサービスへの貢献

(ア) 将来に向けた調査研究・業務テーマへの対応

ITS進展の中でETCが果たすべき役割・機能の検討

(イ) プローブ情報の利活用検討

利活用に向けた諸課題対応の支援

(ウ) I T S 通信サービス等に関する動向研究の推進

次世代 I T S 開発構想進展を前提に、新たな通信サービスへの貢献検討

③事業運営・体制の強化

(ア) 事業推進体制の強化

リスク・コンプライアンス・ハラスメント対応への取組み強化、I T 基盤拡充による業務改善と情報セキュリティ対応強化及び働き方改革の推進

(イ) 将来を見据えた事業運営の検討

(注1)暗号鍵：車SAM（注3）用鍵、ETCカード用鍵及びETC路側機用鍵。

(注2)SPF：Security Platformの略語。当機構はETC／ETC2.0及びITS ConnectのSPFを提供している。

(注3)SAM：Secure Application Moduleの略語。ETCの通信に関する情報の管理と処理を行う機能を有するモジュールであり、車載器に実装される車載器SAM（車SAM）と路側機に実装される路側機SAM（路SAM）がある。

1 鍵発行事業

*注釈：ETC識別処理情報、ETC2.0識別情報、ITS Connectセキュリティ情報のことを以下、鍵情報という。

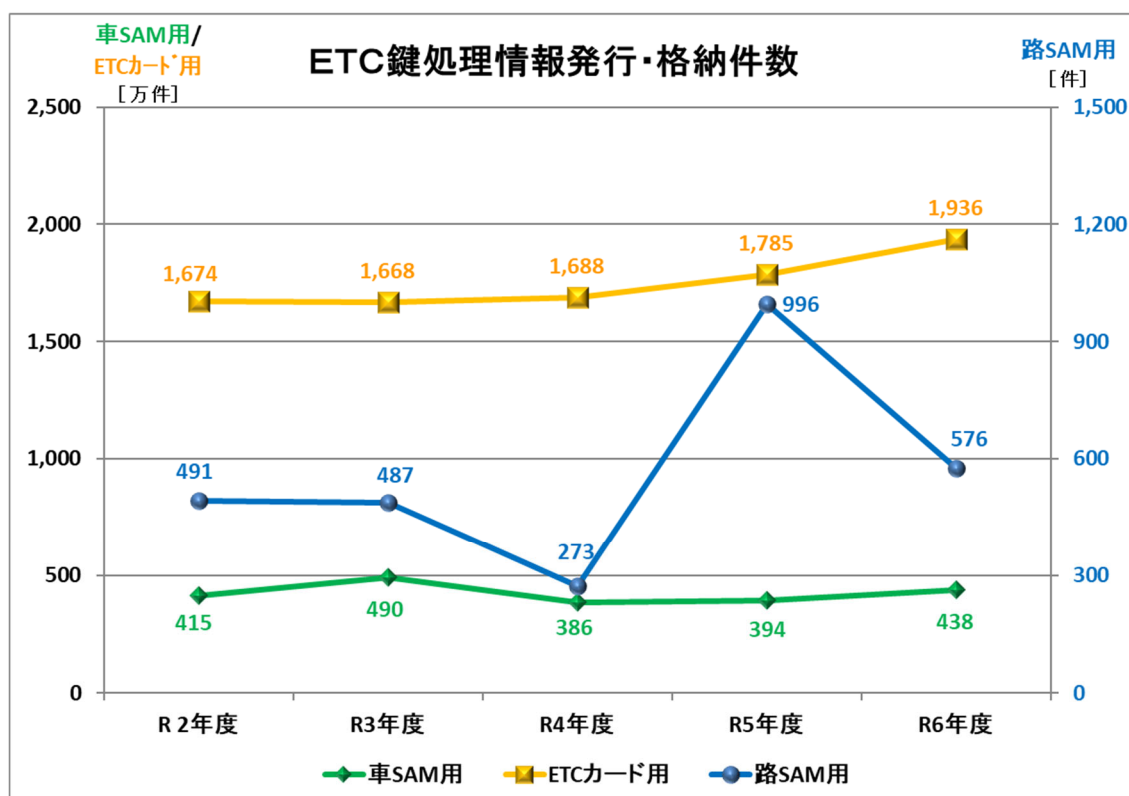
(1) 鍵情報等の発行・格納

① ETCの鍵情報

車SAM用は、当初計画400万件に対して438万件（当初計画比：110%、前年度比：111%）の格納実績となった。

ETCカード用は、当初計画2,003万件に対して1,936万件（当初計画比：97%、前年度比：108%）となり、前回更新ピークの令和元年を157万件上回った。

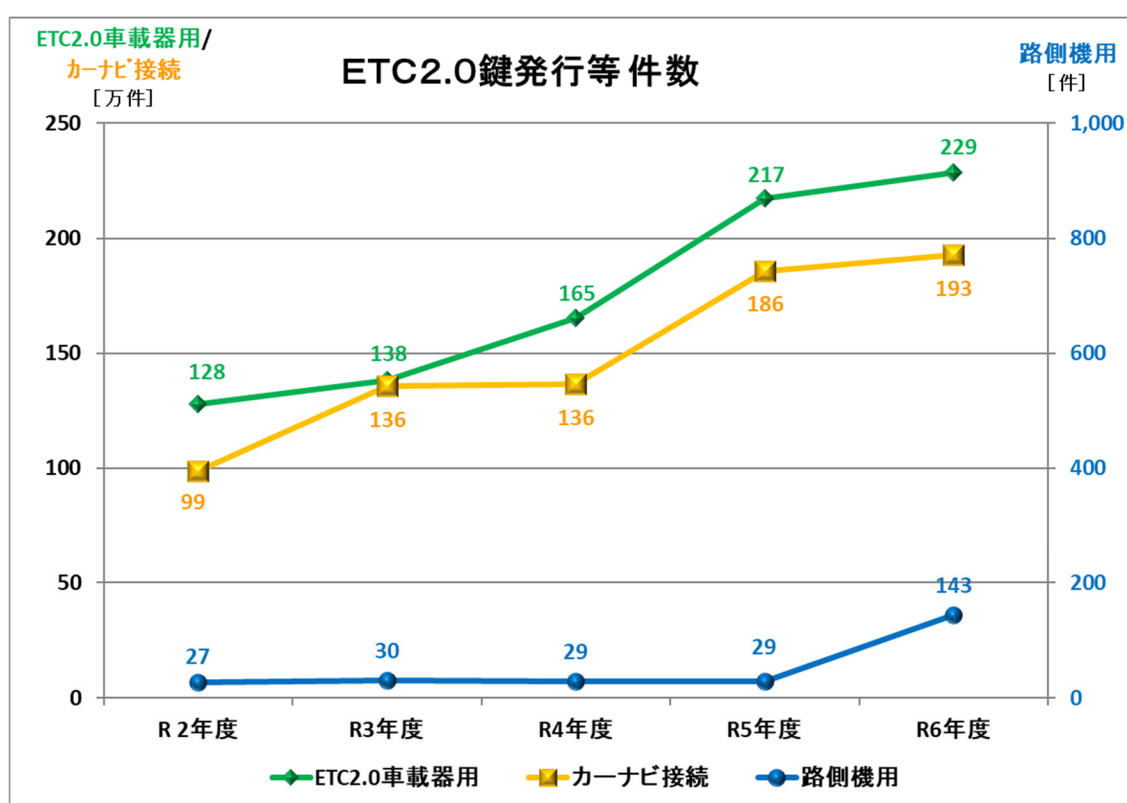
路SAM用については、当初計画446件を上回る576件（当初計画比：129%、前年度比：58%）となった。道路事業者の新料金施策のための増設が令和5年度に収束したため大きく減少を見込んでいたが、期中に路側機の老朽化更新事業が追加されたことにより当初計画を上回る結果となった。



② ETC 2.0 の鍵情報等

ETC 2.0 車載器用は当初計画 236 万件に対し、実績 229 万件（当初計画比：97%、前年度比：105%）、路側機用は同 90 件に対し、143 件（当初計画比：159%、前年度比：493%）、また ETC 2.0 対応カーナビの ETC 2.0 車載器との接続件数は同 190 万件に対し、193 万件（当初計画比：102%、前年度比：104%）となった。

ETC 2.0 車載器用は、昨年度 33% 伸びたが、今年度は 5% 成長にとどまった。路側機用は例年並みの計画であったが、老朽化更新が始まり大幅な伸びとなった。



③ ITS Connect の鍵情報

車載機用鍵は当初計画 11.5 万件に対して 14.8 万件（当初計画比：120%、前年度比：123%）の格納となった。車載機搭載車両の販売が好調であったため前年度に続き想定を上回る伸びとなった。

（2）相互接続性確認試験運営及び型式登録

① 相互接続性確認試験等の状況

ETC 及び ETC 2.0 車載器製造者は量産前の車載器の通信機能の相互接続性確認試験を行っている。この確認試験が確実に実施できるように試験機のメンテナンスを定

期的に行う等、試験環境の適正な管理運営に努めている。今年度は、相互接続性確認試験を6回実施した。また車載器メーカーによるE T C 2. 0相互接続性試験装置利用が9回、I Cカードメーカーによる機能確認試験が4回実施された。

E T Cカード・車載器・路側機の開発・製造者及び道路会社等の申請に基づき、試験用セットアップカード、試験用E T Cカード等を計3, 896枚貸与した（前年度は、3, 096枚）。このうち、E T C 2. 0車載器に係る試験用セットアップカードの貸与は39枚であった。

今年度、E T C 2. 0対応カーナビ機能確認装置によるE T C 2. 0プローブ情報生成機能の確認業務を計3回実施した。また、E T C 2. 0車載器のE T C 2. 0プローブ情報収集試験におけるデータ整合性等の確認業務については、計9回実施した。

②車載器等の型式登録の状況

車載器と路側機の相互接続性が確認されたE T C及びE T C 2. 0車載器に対して型式登録を行い、型式登録番号を付与している。今年度は23型式（3社）について型式登録を行った（前年度20型式）。E T C 2. 0車載器は18型式（3社）で、全E T C車載器における登録件数の78%を占めた。また、E T C 2. 0対応カーナビは、4型式（4社）であった。

（3）鍵発行システムの整備・運用

①E T C鍵発行システム

D S R C鍵発行システムの更新のために令和6年度は基本設計を実施した。また、発行した鍵をネットワーク経由で安全かつ効率的にエンティティへ配信するための鍵データ転送装置を開発し、エンティティ2社へ配信を行っているが、より多くのエンティティへの配信を目指し、提案活動を継続して実施している。

②セットアップシステム

中長期計画の検討において、セットアップ登録店のP Cを利用する現在のセットアップシステムでは登録店毎に環境が異なるW i n d o w s やブラウザ等各種ソフトウェアの設定情報やアップデートに係る運用上の課題が解決できないため、専用端末化による新セットアップシステムの開発を進め、令和4年度に基本設計を完了し、令和5年度から開発を開始した。令和6年度は開発の完了および一部登録店での運用を開始した。今後、令和7年度末までに全ての登録店の移行完了を目指す。

新セットアップシステムでは専用端末化に伴い、セットアップ業務のD X化を実現するべく、効率化、生産性向上を目指した運用方法の見直しを行うとともに、ペーパーレス化、電子車検証のサポート等の業務効率及び利便性を向上させる機能を備える設計としている。

③ I T S C o n n e c t 鍵発行システム

鍵発行システムの更新に向けて、令和6年度は基本設計に着手した。

④ システム整備の中長期計画に関する検討

機構の基幹システムを効果的・効率的・安定的に稼働させるための中長期的視点によるシステムの整備計画について検討を継続した。

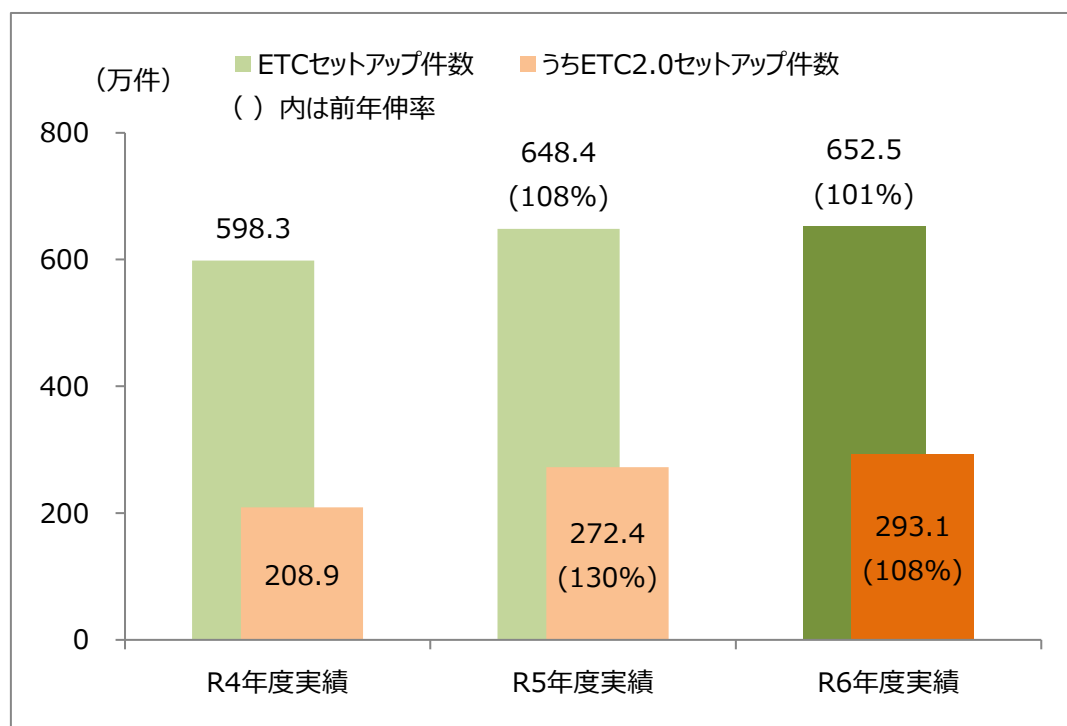
機構の基幹システムを安定的に稼働させるため、令和4年度に策定したBCP対策としてのデータセンタ（DC）配置計画と選定要件に基づき、令和5年度から令和6年度にかけてDCの現地確認等を実施した。令和7年度は移転先の選定を行い、令和7年度末までにDCの移転を完了させる。

2 セットアップ事業

(1) セットアップ情報の発行

ETCセットアップ情報発行総件数は、新車販売台数が当初の予想よりも増加したことを受け、当初計画（636万件）より17万件増の653万件（当初計画比：103%、前年度比：101%）となった。この内、ETC2.0は、当初計画（283万件）に対して10万件増の293万件（当初計画比：104%、前年度比108%）となった。

<ETCセットアップ実績（令和7年3月31日現在）>



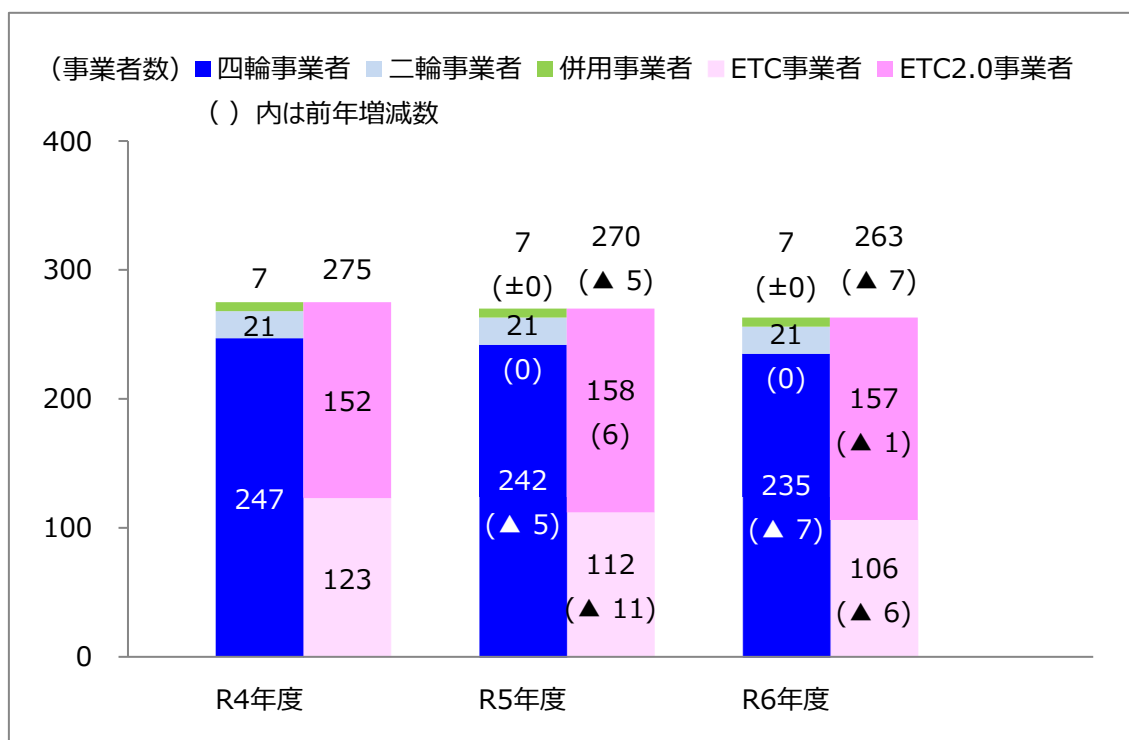
(2) セットアップ登録店の整備

ETCセットアップ事業者総数は263事業者、前年度末より7事業者減少した（内訳：四輪事業者235事業者、二輪事業者21事業者、併用事業者7事業者）。

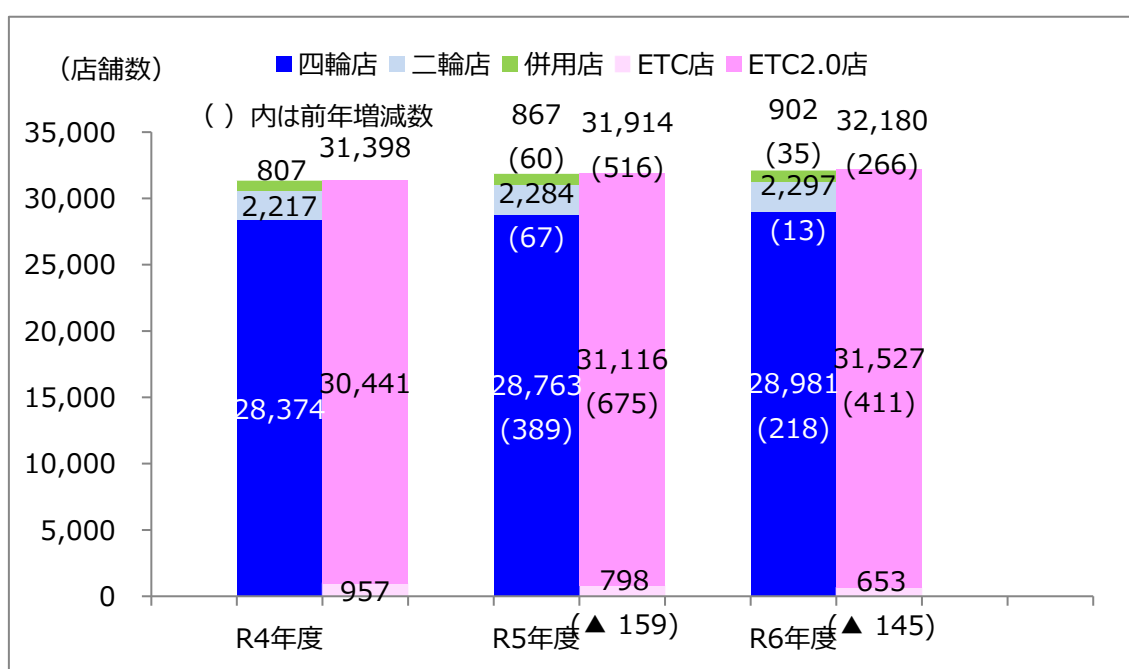
セットアップ登録店総数は、既存事業者の店舗拡大により32,180店と、前年度末より266店増加した（内訳：四輪店28,981店、二輪店2,297店、併用店902店）。

（令和7年3月31日現在）

<セットアップ事業者数推移（令和7年3月31日現在）>



<セットアップ登録店数推移（令和7年3月31日現在）>



(3) 適切なセットアップ実施に向けての環境整備

セットアップ事業者・セットアップ登録店において、適正かつ効率的なセットアップ業務を推進すべく、以下の環境整備を進めた。特に、年度後半から順次導入を開始した新セットアップシステムについては、円滑な移行を実現するための各種取組みを実施し、計画に沿った立上げを実現した。

①新セットアップシステムの導入

- (ア) 新たに店舗へ配付する専用端末等必要な機材の調達、配付スケジュールの作成、問合せ窓口への教育、キitting委託先選定等、必要な準備を実施し、年度後半から店舗への配付を開始した。
- (イ) セットアップ事業者、登録店に新システムの運用を事前に理解していただくため、動画や説明資料等の教育ツールを制作し、それらを活用した周知活動を実施した。
- (ウ) 新システムへの移行に伴い、規程等各種ルール、マニュアル等の改訂を行った。また、事業者との契約について必要な見直しを行い、契約の更新を行った。
- (エ) 配付開始後の稼働状況をモニターし、現場での使い勝手等に関する情報収集を行い、必要なシステムのアップデートや運用面での注意事項の周知等につなげた。



(新セットアップシステムに関する教育動画・説明資料の一例)



(新セットアップシステムに関する事業者講習会実施風景)

②運用ルールの遵守、徹底に関する指導・監督

- (ア) セットアップ登録店の実態把握やセットアップ業務指導のため、毎年実施している店舗訪問調査については、30店実施した。なお、今年度は、調査項目に新セットアップシステムに関する質問を組み込み、現場課題把握の一助とした。
- (イ) 二輪車セットアップにおける二輪ETC登録事務局への手続きについて、セットアップ登録店からの送付書類不備の低減を図る為、実態調査と注意喚起・指導を行った。
- (ウ) 不適切なセットアップを防止する為、特定の不適切セットアップ行為について、セットアップ事業者及びセットアップ登録店に対して、注意喚起と指導を実施した。

③セットアップ関連窓口の的確な運用とインシデント管理

BCP実効性の定期的確認のため、BCP対応拠点（札幌）でのBCP訓練を今年度も2回実施し、継続的な取組みとして発見された改善点のフィードバックを実施した。

また、新セットアップシステムの運用開始に伴い、当該システムとして必要なBCP運用の洗い出し及び対応計画の策定を完了し、一部準備にも着手した。

3 普及促進、広報、調査等

(1) 総括

ETC及びETC2.0の普及拡大に向け、国や道路会社及びETC運用連絡会議、DSRC運用連絡会議、セットアップ事業者連絡会などと連携し、ユーザーへ向けた広報及び普及促進策を実施した。

(2) ETC及びETC2.0の普及促進に向けた各種料金の引下げ

普及促進を目的として、当機構が徴収する各種情報料金の引下げを実施し、国及び道路会社が展開する普及促進活動を支援した。

(3) ユーザーのための広報活動

国や道路会社等が発信するセキュリティ規格変更やETC専用化をはじめETC及びETC2.0に関する情報を集約し、ETC総合情報ポータルサイトや印刷物を通じてタイムリーに情報提供し、ETC及びETC2.0に関する理解や普及促進を図った。

①ETC総合情報ポータルサイト

国や道路会社等が発表する新たな施策等をユーザー視点でより分かり易く情報発信した。

②ETC及びETC2.0普及促進広報活動

(ア) ETC運用連絡会議及びDSRC運用連絡会議と連携した普及促進の取組みとして、J E I T Aが主催するイベント「CEATEC2024」に出展し、各種PRを実施した。

(イ) 各道路会社の料金所のETC専用化の取組み等に合わせて、ETC専用料金所に関する情報やETC利用による料金割引制度をわかりやすく解説したガイドブック等を制作した。



ETC 割引ガイドブック



ETC2.0 お役立ちハンドブック

- (ウ) 道路会社と連携し、道路会社が発行する冊子等への広告出稿による普及促進活動を行った。同時にその媒体を活用してセキュリティ規格変更をはじめETC関連のWebアンケート調査を行うとともに、ETC総合情報ポータルサイトへの誘導を図り、ETCに関連する各種情報の発信を行った。



首都高るるぶ(首都高)

ETCアンケート2024プレゼント



② ETC便覧の発行

ETC及びETC2.0に関係する事業者や研究者等への情報提供を行うため、それらの仕組みや普及状況、海外事例等を取りまとめた「ETC便覧(令和6年版)」を編集・発行した。



ETC便覧 令和6年版

(4) ETC及びETC2.0に関する市場の実態調査

市場動向を把握するための基礎調査として、車載器の実勢価格調査などを実施・分析した。

(5) ETCお問い合わせ窓口の運営

ETC及びETC2.0ユーザーからの問合せを、電話、FAX及びメールで受け付ける「ETCお問い合わせ窓口」の運営を行い、ユーザーへのサービス向上を図った。また、日々「ETCお問い合わせ窓口」に寄せられる問合せ内容を整理・分析して、道路事業者や各関連事業者へ情報共有を行うことで、ETC全般のサービス向上に寄与した。

4 ETC及びDSRCシステムの高度化、セキュリティ強化

(1) 活動方針

ETCが今後も安全に利用可能であることを保証するためには、その技術的準備として、関連する情報セキュリティや暗号技術に関する動向把握が必要である。一般的に、暗号技術は解析技術や計算機能力の進歩により、その安全性が低下する。継続的な安全確保には、導入した暗号技術の安全性低下に関する継続的監視と、適切な暗号技術への適時の切替が必要である。

また、システム安全性の継続的保証には、システムが用いる暗号技術が危殆化する前に、安全な暗号技術への移行が必要である。ETCにおける暗号技術の切替は、関係機材の交換、更新等を伴い、特に車載器についてはユーザーの買替えによる機材交換を促す必要があり、関係者による適切な移行計画の立案及び実施が必要である。

今年度も引き続き移行計画に基づき、国、道路会社への支援を行った。

(2) ETC及びDSRCシステムのセキュリティ高度化に関する調査研究

① ETCの暗号移行に関する整理検討

国、道路会社と連携し、暗号移行の詳細な検討を行い、有識者や関係機関との調整を積極的に行い、ETCの暗号移行が円滑に進むよう継続的に取り組みを行った。

② ETC及びDSRCに関連する暗号動向の調査等

ETCのセキュリティの確保と向上のため、暗号アルゴリズム、セキュリティプロトコル等の観点から、最新の脅威等を調査し、その対策手法の研究及び安全性の評価を行った。

(3) ETCシステムに関する情報安全確保規格の提供とセキュリティの確保

開示申請者に対し情報安全確保規格の開示を行った。また、開示を受けている事業者に対する同規格書の管理状況等を立ち入り調査し、セキュリティの確保に努めた。

5 新たなITSサービスへの取組み

(1) 活動方針

ETC及びITSを取り巻く環境変化は一段と加速している。各高速道路会社のETC専用化をはじめとする新たな施策やロードマップが公表され新たな料金制度においてETCの持続的な活用方針が明示されている。他方では、先進諸国におけるZEV（注4）普及政策などSDGsに直結する道路課金、環境対応、モビリティ等の政策が立案実行されつつあり、従来のITS関連議論に対してパラダイムシフトを迫るものとなる可能性が増しつつある。上記のような環境認識のもと、今年度の調査研究活動において国内外の次世代ETC・ITSの動向、ETC2.0プローブ情報の利活用等に関し調査研究などを実施している。

（注4）ZEV（Zero Emission Vehicle）：排出ガスを一切出さない電気自動車や燃料電池車を表す言葉（一般社団法人次世代自動車振興センターWebサイト：次世代自動車用語集より引用 <https://www.cev-pc.or.jp/kiso/zev.html>）

(2) ETC2.0プローブ情報の利活用

平成30年度から令和4年度まで実施した国土技術政策総合研究所との「ETC2.0データの配信サービスに関する共同研究」の成果を用いて「ETC2.0データ」渋滞実績検索アプリを構築し、ホームページ上において試行運用を行い、「ETC2.0データ」から生成される情報とその活用例を体験いただいた。これらETC2.0データの利活用やデータオープン化に関する国の施策について引き続き支援した。

(3) 次世代ETC・ITSに関する調査研究

次世代のETC・ITSを検討する際の基礎資料とすることを目的として、施策、制度、関連技術等の最新動向について広く調査を行った。

① 国内ETC・ITS関連サービスに関する基礎調査

次世代ETC・ITSサービス検討の基礎資料として、国内現行サービス、及び関連動向を広く調査する。特に、サービス提供者、関連機材提供者、ユーザーの各視点を意識し、それぞれの視点での訴求点、課題等を抽出、整理した。

② 海外ETC・ITS技術・制度等に関する動向調査

国内ETC・ITSの現状理解と次世代サービスの検討を支える基礎資料として、諸外国におけるETC・ITSに関する各種動向を調査、比較整理した。

③ ETC・ITSに関する最新動向の調査研究

ETC・ITSの将来に大きな影響を与えうる施策、制度、関連技術等の動向を把握し、それら変化動向が、国内ETC・ITSに与える影響について検討・評価を行った。

6 事業運営・体制の強化

E T CのS P Fを担う財団として、地震等の災害、サイバー攻撃等によるセキュリティ障害等による事業活動の中断を避けるため、B C Pをはじめとする事業基盤の継続及び体制の強化を図った。さらには、既存業務のD X推進による生産性の向上に取り組むとともに、多様で柔軟な働き方を進めていくことにより、やりがい・働きがいのある職場づくりを推進した。

(1) 機構全体のガバナンス堅持

E T CのS P Fを担う財団として、法令順守はもとより、機構全体の情報セキュリティポリシー等に基づく活動を行い、職員の情報セキュリティ教育、情報発信など意識啓発を継続し、高位平準化を目指した取組みを実践する。内部監査や国際規格である I S O 2 7 0 0 1 の認証審査を受ける等、活動の確認を行うとともに、本年度も引き続きコンプライアンスやハラスメント防止に係る研修を実施する等、機構全体のガバナンス堅持に取り組んだ。

(2) 働き方改革の推進

在宅勤務等の多様で柔軟な働き方をより活用できるよう、引続き I T 基盤拡充による既存業務のD X推進を行い、生産性の向上に取り組んだ。

(3) やりがい・働きがいのある職場づくり

働きやすい職場環境を整えながら、将来を見据えた人材の育成や確保に努めた。

7 関係機関・事業者等との連携及び交流

(1) ETC運用連絡会議、DSRC運用連絡会議等

ETC及びDSRCの品質向上、運用の円滑化、普及並びにセキュリティ確保やETC技術及びDSRC技術の活用を推進した。

- ① ETC運用連絡会議の事務局としてその活動を支援した。
- ② ETCセキュリティ協議体の事務局としてその活動を支援した。
- ③ DSRC運用連絡会議の事務局としてその活動を支援した。



DSRC運用連絡会議 総会 令和6年5月

(2) セットアップ事業者連絡会

セットアップ事業者連絡会活動の更なる活性化を目指し、事務局として各会議体（総会・幹事会・分科会）の運営や事業者連絡会主導のETC及びETC2.0の普及促進活動、セットアップ業務の改善活動を支援した。

① 業務改善分科会

適切なセットアップ業務の推進に向け、セットアップ登録店における新セットアップシステムへの移行を支援する為の資料作成等を分科会メンバーと連携し実施した。

② 普及促進分科会

ETC2.0の普及促進活動について、全国の自動車教習所でのPR動画の放映や、道の駅で配布される情報誌への情報掲載等を実施した。

③ 二輪車分科会

二輪登録店の業務である二輪車ETC登録事務局へのセットアップ資料送付の不備低減活動について、分科会と連携し、実態調査及び注意喚起・指導を行った。